



学校法人志賀学園  
久之浜こども園  
令和6年4月9日

桜の花が満開になり、皆様のご入園ご進級をお祝いするかのようです。いよいよ期待に胸が躍る新年度のスタートです。

新入園児の皆さんご入園おめでとうございます。小さな手足のかわいい子どもたちをお迎えでき、職員一同喜びでいっぱいです。

0～1歳児の多くのお子様は、泣いて登園してきます。今までご家族との時間が長かったのですから、お母さんから離れられず泣くお子さんがいても当然ともいえます。保育者はずっと抱っこをしたりおんぶをしたりして「そうだよね！寂しいね！」「お母さんに会いたいよね…！」と泣いている子どもの気持ちに共感しながら泣き止むまで寄り添います。個人差はありますが、安心する場所であることを身体で感じながら、園の環境に慣れて行きます。

3歳児は、初日から泣く子もいれば、園生活のリズムが一通りわかってから泣き出す子もいます。そんな子ども一人ひとりの思いを受け止め、ブロックやプラレール、ままごとなどお家で経験のある玩具で遊んだり、手をつないで園庭遊具を巡ったりします。泣いていたり不安な気持ちを抱いている子どもも、保育者と手が触れていたり、園庭に出て手をつないで歩いているうちに、滑り台、ブランコなど大きな遊具に気が紛れ、気がつくとき泣き止んで遊び始めます。「いつも先生が近くにいるよ！」という保育者の思いを感じながら園生活が楽しい場となっていった欲しいと思っています。

また、進級児の皆さんは園生活になれているようでも、進級によってお部屋が変わったり、先生が変わったりして、多少の不安があるお子様もいらっしゃるかと思います。そのような状況の変化に対応しながら新しい先生や友達、異年齢児とも信頼関係を築いていき、更に広い人間関係がつけられるよう支えて参りますので、子どもたちの育ちを見守っててください。

さて、今年度の教育方針は『子どもたちが好きなこと、ものに出会える園になろう』です。子どもが発達に必要な経験を積み重ねていくのには、保育者の適切な援助と環境の構成が大事です。私たち保育者は子ども一人ひとりに愛情をもって関わり、そのこどもの育ちをよく理解しながら年齢に応じたあそびの環境を設定して楽しい保育を行って参ります。

これから園児の皆さんが元気に園生活を送れますよう、園とご家庭が連携をとりながら進めて参りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

久之浜こども園園長 青木孝子